

# 北大経済学部同窓会報

第33号

発行者  
北海道大学経済学部同窓会  
発行日  
2017年8月21日  
電話&FAX  
(011)706-4113  
email  
dosokai@econ.hokudai.ac.jp

経済学部卒業者数  
11,194名



ごあいさつ



北大経済学部  
同窓会会長  
上野 昌美  
(昭和47年卒業)

北大経済学部同窓会員の皆様に、同窓会報第33号をお届けします。

昨年の11月2日に、経済学部東京同窓会に出席いたしました。今回は法学部同窓会と合同開催でした。東京で長年活躍されていた会員の皆様や学部を卒業してまもない若い会員が参加して大変な盛会でした。東京会の活発な活動に圧倒された次第です。翌11月3日には秋の叙勲が発表され、経済学部同窓会の第9代会長の我孫子健一氏が瑞宝中綬章の栄に浴されました。我孫子元会長の叙勲は経済学部同窓会にとっても名誉なことです。我孫子元会長には心からお祝いを申し上げます。

北海道大学の同窓会組織は全学同窓会である校友会エルムの発足に伴って変化し始めています。校友会エルムは全学の卒業生を中心とした会員組織ですが、経済学部同窓会は経済学部卒業生を中心とした組織です。こういう全学／学部という関係から、経済学部同窓会は校友会エルムの基礎同窓会と位置づけられています。校友会エルムと経済学部同窓会では会員資格の取得方法が大きく異なります。経済学部の同窓生は卒業と同時に自動的に同窓会の会員資格を得ることができますが、校友会エルムの会員となるためには申込みと会費の納入が必要です。ただし、

経過措置として、校友会エルム発足時に基礎同窓会の会員だった同窓生は自動的に校友会エルムの会員資格を得ることができます。その後、校友会エルムの会員になるためには個人の申込みが必要となりましたが、詳しくは校友会エルムのホームページをご覧ください。

本年4月から校友会エルムが本格的に始動しはじめ、新入生からは会員となるためには所定の申込みと会費の支払いが必要になりました。今後しばらくの間は、学部同窓会、地域同窓会、全学同窓会という三つの同窓会組織が併存する状況が続くことが予想されます。従来から全学レベルではクラブ活動の同窓会、学部レベルではゼミの同窓会などに積極的に参加している同窓生も多い状況ですから、同窓生が参加できる同窓会組織は実に多様になりました。冒頭で経済学部東京同窓会の活発な活動についてご紹介しました。地域同窓会の東京会ではジーンズカンパニーが年々盛んになり、特に若い会員の方々が積極的に参加していると聞いています。札幌でも地域同窓会であるほっかいどう同窓会が積極的な活動を展開しています。経済学部同窓会も活動を活発化していきたいと考えていますので、会員の皆様の積極的な参加をお願いします。本年9月30日には第6回ホームカミングデーが開催されます。会員の皆様にはこの機会に、ホームカミングデーと同日開催される経済学部同窓会の総会および文系四学部共催の懇親会に積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

最後になりますが、会員の皆様のご健勝を祈念してごあいさつといたします。

# 言頭卷

次々と起る新しい試みと課題  
— 優れた研究教育進化の為に —  
同窓会へ期待 —



経済学研究院長  
(学院長・学部長)

町野 和夫

昨年度の同窓会報でお知らせした通り、北海道大学大学院経済学研究科は本年度から教員の属する経済学研究科と大学院教育を行う経済学院に改組し、経済学部とあわせて三つの組織に再編されました。また、従来の公共政策大学院に加え、農学院が主体となって開設する国際食資源学院にも参画することになりました。久保田肇教授には本研究科に籍をおきながら数年間は国際食資源学院のメンバーに、逆に農学研究院の東山寛教授には経済学院のメンバーになっていただきます。今後も新たに設置される様々な学際的な大学院や研究センターへの参画を通して北大内の他研究院との協力が進むことになりそうです。

職教員の後任を採用できないは覚悟しなければならぬようです。教授・准教授合計で40数人の組織ですので大打撃です。

大学全体の収入は、理系を中心とする大きな(期限付き)プロジェクトの増加でむしろ微増傾向が続いているのですが、これらのプロジェクトで採用できるのは期限付きの研究者や教員のみです。若手の研究者は、こうした大型プロジェクトやその他の期限付きポストで実績を積むことが、安定的な職を得るための必要条件になってきています。幸い、最近の大型プロジェクトは文理融合型が多く、その中には必ず経済学・経営学的視点が必要になります。本研究科でも文理融合型プロジェクトに参加しながら、いずれは主導的な立場で大きな研究プロジェクトを獲得できるような実力を蓄えていきたいと思っています。

教育面では、2014年に採択されたスーパーグローバル大学としての計画に沿って、留学支援を強化した学部横断型選抜プログラム「新渡戸カレッジ」、海外の学生が(留学ではなく)北大生として英語のみで入学できる「現代日本語プログラム(文系)」、「新渡戸カレッジ」の大学院版である「新渡戸

昨年度の大会報でも申し上げたように、国の財政難によって大学の運営費交付金の削減は続いており、北大そして本研究科も教員定数の削減という形でその影響が及び始めています。昨年度の総長選挙でもこの問題が最大の争点となりました。現在、新総長の下で削減幅をできるだけ抑えるべく検討が進められており、早ければ夏頃には具体案が提示される予定です。しかし削減幅が小さくなったとしても、経済学研究科で少なくとも3人程度の削減(退

職教員の後任を採用できないは覚悟しなければならぬようです。教授・准教授合計で40数人の組織ですので大打撃です。

なお、昨年度末で、長きにわたって本学の研究教育に多大のご貢献があった西部忠教授が他大学へ異動されました。誠に残念ですが、長年のご尽力に對して感謝し、今後の益々のご活躍をお祈りしたいと思います。また、本年3月からは産業組織論担当として今井晋教授が赴任されました。海外経験が長く多くの業績を上げられた同教授をお迎え出来たことは心強い限りです。

厳しい財政事情の中で、国内外の他大学との競争は益々厳しくなりそうです。経済学研究院・学院・学部がこの荒波を乗り越え、今後優れた研究教育機関として進化し続けられるよう、教職員一同努力する所存ですが、皆様にも一層のご支援・協力をお願い申し上げます。

厳しい財政事情の中で、国内外の他大学との競争は益々厳しくなりそうです。経済学研究院・学院・学部がこの荒波を乗り越え、今後優れた研究教育機関として進化し続けられるよう、教職員一同努力する所存ですが、皆様にも一層のご支援・協力をお願い申し上げます。

昨年度の大会報でも申し上げたように、国の財政難によって大学の運営費交付金の削減は続いており、北大そして本研究科も教員定数の削減という形でその影響が及び始めています。昨年度の総長選挙でもこの問題が最大の争点となりました。現在、新総長の下で削減幅をできるだけ抑えるべく検討が進められており、早ければ夏頃には具体案が提示される予定です。しかし削減幅が小さくなったとしても、経済学研究科で少なくとも3人程度の削減(退

職教員の後任を採用できないは覚悟しなければならぬようです。教授・准教授合計で40数人の組織ですので大打撃です。

なお、昨年度末で、長きにわたって本学の研究教育に多大のご貢献があった西部忠教授が他大学へ異動されました。誠に残念ですが、長年のご尽力に對して感謝し、今後の益々のご活躍をお祈りしたいと思います。また、本年3月からは産業組織論担当として今井晋教授が赴任されました。海外経験が長く多くの業績を上げられた同教授をお迎え出来たことは心強い限りです。



心のリゾート  
海の別邸 ふる川

白老郡白老町虎杖浜289-3  
(0144-87-6111)

<http://www.kokorono-resort.com>

(ナトリウム塩化物濃度 pH 8.2)



ぬくみの宿  
ふる川

札幌市南区定山溪温泉  
(011-598-2345)

<http://www.yado-furu.com>

(ナトリウム塩化物濃度 pH 6.7)



運河の宿  
ふる川

小樽市色内1丁目2番地  
(0134-29-2345)

<http://www.otaru-furukawa.com>

(ナトリウム塩化物濃度 pH 7.5)

代表取締役 古川 善雄 (経済学部 37年卒業)



3月23日、午前中の卒業式に続き百年記念館において経済学部・研究科卒業生を送る会（兼同窓会入会式）が開催されました。席上、上野会長より200余名の卒業生に対し饒の言葉が贈られ、その後のパーティーではこれから社会に飛び立つ若者らの安堵感と開放感にあふれた歓声が会場いっぱいに響いていました。

毎年優秀論文に対して授与される同窓会長賞には中森勝也さんの「リーダーの経験と価値観―テキストマイニングにもとづく分析―」が選ばれました。

この会には例年同窓会より15万円を寄贈し多くの学部関係者より感謝の言葉をいただいております。



6月24日、今年も好天の札幌エルムカントリークラブで37回目となる「伝統の一戦」が行われました。初夏の薫風の中、集まった22人は日頃鍛えた技量をいかんなく発揮し、好プレー、珍プレーの連続に笑いの絶えない一日を過ごしました。

優勝者こそ法学部に譲ったものの団体戦は経済学部が昨年に続き勝利をおさめました。プレー後の表彰式は年代、学部、ハンデを乗り越えた和気藹々の雰囲気の中で進められ、成績下位者にも上位者に負けぬ「豪華」賞品が手渡されました。最年長の坂東幸春さん（昭和34年卒・写真左）は「毎回参加するのを楽しみにしている。より盛会になることを期待している」と力強い挨拶をされました。また浦和から参加の矢島正弘さん（昭和40年卒・写真下）は「同期のメンバーらと毎年集まっていますが、今年はこのゴルフに合わせました」と報告の後、複数の「望外の賞品」を手にとられました。



《今年の表紙》

人口200万都市の真ん中で悠然と草を食む牛たち―これぞわが母校の変わらぬ風景の一つです。

写真を寄せていただいたのは中村健太さん（平成14年経済学部卒）。北大では写真部に所属、部長も勤められ、卒業後はフリーのカメラマンとして活躍中です。日本旅行写真家協会理事の傍ら、NPO「北海道を発信する写真家ネットワーク」の理事長として意欲的に活動をされ、今年11月には東京で写真展を開催する予定です。拝見したAIRDO社のカレンダーなど素晴らしい、写真の事ならご相談されては如何でしょうか。連絡先はPage: nakamura@gmail.com



来年も同時期に開催予定です。毎年少しずつ参加者数も盛り返しています。初心者若者、女性、定年組：大歓迎です。

連合・労働  
相談ダイヤル



0120-154-052

（発信地の都道府県にある連合につながります。相談無料・秘密厳守）

連合は、全国のあらゆる産業で働く680万人の仲間組織する労働組合のナショナルセンター（中央組織）。すべての労働者が安心して働き、暮らせる社会づくりのために活動しています。



連合（日本労働組合総連合会）

連合北海道 会長 出村良平（昭58年卒）

# ゼミ紹介 第二回

## 社会経済学 岡部洋實教授

# 岡部ゼミ

### ①ゼミ紹介

#### □経済を見る

はじめまして。岡部ゼミの紹介をさせていただく栗原貴史です。大変貴重な機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。岡部ゼミの紹介をさせていただきます。

岡部ゼミでは経済とは何かという根本的なものから現代の経済を抱えるあらゆる問題までゼミ生全員で検討し、「経済を見る目」を養うことを目的として日々、活発な議論を行っています。

はじめに、『知識を得る』ということ。知識を得る手段として岡部ゼミでは輪読を行っています。卒業された先輩方が想像する輪読とは多少違うものかもしれませんが、岡部ゼミで行われている輪読とは協道にそれるためのもの、すなわち与えられた文献の枠を飛び越えた知識を得ることを目的に輪読が行われています。通常、輪読は与えられた文献の内容についてゼミ生がまとめて発表するというのが多いのですが、岡部ゼミではそれはもちろんのこと、輪読の発表中に様々な事柄について議論が波及し、与えられた文献とはかなり離れた事柄について一時間以上も議論が行われることもしばしばです。しかし、一見ゼミと



は関係ないような事柄の議論が終えてみると実ははじめの議論とつながっており、点と点ではなく線で理解することができるようになっていて、与えられた文献からさらに発展的な知識を得ることができているのです。

次に、『考えを伝える』こと。知識を得たあとに行われることは考えを相手にわかりやすく伝えるということ。知識を得ても活かした知識として理解しなければならぬという考えから、ゼミ生同士の議論を行います。もともと、頭の中で理解していてもそのことを自分の言葉に置き直してわかりやすく相手に伝えるということとは容易なことではありません。自分の言葉で説明しなければならぬ場合に言葉が出ず口ごもってしまうということも多くありますが、岡部先生は私たちに不足しているところを補いゼミ生が自分の考えを言葉にすることを手助けしてくれました。そのような手助けもありながら知識を理解し自分の言葉でわかりやすく伝えることで、活きた知識を獲得しています。

最後に、『積極的に質問をする』ということ。ゼミでは知識の習得、考えの伝達が行われた後に皆がその事項について質問を行います。ここで行われる質問は多岐にわたるものです。本文の指示語の内容から本文に書かれている日本語の構造など文章の本質に関するもの、ミクロ経済・マクロ経済から新自由主義などの理論的・思想的なもので、様々な質問が思わぬところから飛び出してくる。質問を受けた側はあいまいな答えをしようとする。質問を受けた岡部ゼミではここで終わらせず皆で即座に調べて答えを出し、その答えについてさらに磨きを加えていきます。以上のように3つの方法で岡部ゼミでは「経済を見る目」の養成に励んでいます。

#### □奥深い「自由」

岡部ゼミで学ぶことは学問に関することだけではありません。このゼミでは様々な事柄から自由であることを学びます。ゼミ内容の決定・運営について先生は口を出すことは滅多にありません、先生は「任せます」の一言のみで、すべては学生の自主に任されています。そのような大きな決定権を与え

られたゼミ生たちはゼミ生間の様々な事情を考慮しながらゼミ運営を行っています。ここでわかる自由の難しさは大きく2つあります。

まず、ゼミ全体の自由はゼミ生の考えと配慮の上に成り立っているという点です。ただ単にゼミ生のうちの一人が自由であろうとする他のゼミ生の負担となり、それではゼミの自由が保たれたことにはなりません。私たちは多くの話し合いを通じてこの難しい自由の問題について考え、自分なりの答えを出すことにしています。



2015年9月

そして、ゼミの運営の過程では十人十色のゼミ生の個性を目の当たりにすることになります。価値観の合う人や異なる人、また自分の価値観を明らかにしたくない人もいます。これらの人々に対して自分の価値観を押し通して賛同を強制したりすることはできません。岡部ゼミでは発言・賛同を強制することなく、発言をして意見を述べる人に対してはゼミ生全員が意見をよく聞きその人の意見・価値観を受け入れます。自分の意見・価値観を発信し、受け入れることでゼミ生自身が自分なりの自由を発見することにもなります。

多種多様な人たちが集まり、意見を交換する場であるゼミでは他者の「自由」を認め合い、共同してゼミ全体の「自由」を作り上げようということを学んでいます。

#### □学ぶことはゼミの外に

岡部ゼミでは公式・非公式にゼミ外で先生と学生または学生同士の交流が多く行われます。ゼミのメンバーには留学生を含む様々な人々が所属しており、それらの人々と交流することで自分の視野を広げることが出来ます。中でも先生を通して行われる人生相談・よろず相談では人生の先輩である岡部先生が自己の経験や体験を交えながら、時には真剣に時には笑いを交えて学生たちの今後の人生に為になる話をしていただけています。このほかにも岡部ゼミに所属する学生は個性の強いメンバーがそろっていて、彼ら彼女たちの考えに触れることで物事を考えるうえでは答えは一つではなく色々な答えがあつてよいことに気が付かされます。教室の中だけで学ぶものでは

なくゼミ外で学ぶことにも今後の人生を過ごすうえでのヒントが詰まっているのです。

#### □北大だからこそ

最後に、岡部ゼミの自由な雰囲気は北大だからこそ作られるものです。有名な「紳士たれ」の一言は北大の伝統を端的に示しています。つまり、規則は多くなくてよい、学生一人一人が紳士となり各自が自覚して他者を尊重することが大切であるというものです。この北大に流れる精神が岡部ゼミの自由・自主の雰囲気醸成しています。北大に流れる精神その精神を引き継ぐゼミを通じてゼミ生たちは大学で人間力を育み、自分が何者であるかを学び理解し北大人として社会に出ていくこととなります。

### ②岡部先生のコメント

北大に着任したのが一九八七年十月ですから、今秋でちょうど三十年になります。初めてゼミ生を迎えた八八年四月以来、ゼミでは頑なに輪読を続けてきました。二度三度使用したものもありますが、学生諸君と読んだテキストの数は六十を優に超えました。何を読むか。ゼミ生の希望によったこともありますが、ほとんどの場合、私がそのときに読みたいものがテキストです。しかも、学生諸君には少し難しいかと思われるものをあえて選ぶのが方針でしたが、ときには期待に反して書きぶりの退屈なものもありましたから、付き合ってくれるゼミ生諸君もなかなか粘り強いと、いままさらながら感心させられます。

ゼミの時間割は、三十年間ずっと月曜日です。前もって準備してあつても、日曜の夜は、どんな論点が出されるのかを想像しながらテキストを予習するのが習慣になっています。しかし、予想が当たったことはありません。目から鱗が落ちるような意見が出てくる一方で、意表を突くような難問・奇問も出てくる。少々難しいテキストにしたのが災いしてか、議論までいかないと「苦情」が出たことすらあります。私が質問を繰り返しながらゼミ生と私の両方の頭の中にストンと落ちるよう直し、あるいは新たな



2010年9月

に編み出すこともあります。とはいっても、そうした営みは私にとって、テキストの内容や関連した事々を整理し直し、私自身の考えを進める一歩となります。それは、ゼミ生諸君が私の読みたいと思う本に対する私自身の理解を深めてくれる、得がたいプロセスでもあるのです。

合宿や飲み会などでは、北大のことはもとより、街の様子やアルバイトのこと、はたまた健康や芸能情報に至るまで、若い眼が見つけ出し出してくる、私一人では到底見聞きできないさまざまな話題は、いつも刺激的で興味深いものばかりです。それやこれやを思うにつけても、ゼミで多くを学ぶのは、学生よりも教師なのかもしれません。

### 3 OOB・OGから

#### 西村英里子さん (平成15年卒業)

岡部先生には大学院まで4年間お世話になりました。いつも優しく、怒ったところを見たことがないように思います。冬休みに真っ赤に修正された卒論や修論の原稿が家に届いて、とてもありがたかったです。岡部ゼミでの一番の思い出は、毎年恒例の蘭越でのゼミ合宿です。蘭越のコテージを2棟借りて、ゼミ生全員参加でした。天気が良ければ外でゼミをやることもありましたが、私は参加しませんでした。休憩時には芝生で青空麻雀が繰り広げられていました。夕食はみんなでカレーを作り、夜は空一面の星空と、たくさんの流れ星をみんなで見ました。帰りはパークゴルフをして帰るような内容でした。そんな自然の中の美しい景色と楽しい思い出が心に残っています。岡部ゼミはいつも和やかでしたが、合宿でゼミ生の親交を深められたのが一因かなと思います。

ゼミの思い出はそんな感じで、勉強した本の内容などは記載できるほど思い出せないのですが、きっと人生に活かされています。私は今東京のIT企業で会社員をしています。大変なこともありますが、尊敬できる上司や信頼できる同僚も周りにおり、お客様との関係もよく、やりがいを感じて働いています。最近ではタイの会社と関わり、昨年は

月に1回バンコクを訪問してました。外国の方と話すのは、とても刺激になります。ただ札幌育ちの私にとって、東京はやはり都会過ぎて、ときどき故郷と緑がたくさんで時間がゆつくり流れていたような北大のキャンパスを懐かしく思い出しています。



2000年10月

卒業して二年が経ち、現在は「日本土地建物株式会社」に入社、東京で勤務しています。ほとんどの授業を単位取得が目的に履修する不真面目な学生だった私にとって、あれほど必死に予習して臨んだ授業はゼミにおいて他にありません(ほとんど、当日ギリギリにやっておりましたが)。当時は、先生的的確で妥協を許さないご指摘を恐れず準備しておりましたが、いま思い返してみると一冊の書物を一年間かけて議論を交えながら読み解いていくゼミの時間は、非常に新鮮で楽しい時間でした。

#### 橋本駿作さん (平成27年卒業)

卒業論文では、シルビオゲゼルスの「自由貨幣論」をテーマに挙げ、「減価する貨幣」を軸とした経済システムの研究を行いました。私の的はずれな意見や質問に丁寧に応えてくださり、遅々として進まない私の原稿に、根気強くお付き合いただいたこと、今でも感謝しております。社会人になった今も筆不精は改善しておらず、本稿も締め切りを大幅に過ぎたから取り組むこととなってしまし、卒業してまでも先生にご迷惑をおかけしておりますが、。

また今回振り返ってみて、ゼミ以外の時間やゼミ合宿の宴会で先生とお話した記憶が強く残っていることに気がつきました。深い知識に裏打ちされたウィットに富んだ語り口には一学生として素直に憧れましたし、「学ぶことの楽しさ」は授業よりもむ



1989年10月

しろこうした先生とのお話の中でご教授いただいたような気がしております。

現在は、大学の専攻とは直接関係のない仕事をしておりますが、全く知識のない状態で入った不動産業界について、日々、新しい知識を取り込むことを楽しみなが働いているのは、学生時代の経験に因るところが大きいかと感じております。

本稿執筆のご依頼を頂くにあたって、久しぶりに先生のお声が聞けたことを嬉しく思うと同時に、卒業以来、一度もご挨拶に伺ってないことに気がつきましたので、次回の帰省の際には、一度、研究室へ寄らせていただきたいと思います。

#### 中村祐一さん (平成2年卒業)

「1期生」「ゼミの記憶」「古株」「学生時代」「在任中」をキーワードに在学当時(昭和61年4月〜平成2年3月)の記憶を辿りながら書きたいと思っております。

最初に「1期生」から：当時、各ゼミでの学生選考は、北の教養部と南の経済学部の往復が日課となっていた。2年次後期の学部移行期に行われました。学生側がゼミを選ぶ際は、研究内容、雰囲気、苦楽の程度、ゼミの掟、教官の人格等が基準でしたが、1期生4人の決め手は将に「岡部先生」ご本人そのものでした。

次に、「ゼミの記憶」から：ゼミでは授業や夏冬の合宿でも、専らテキストの輪読を行いました。ゼミ最初のテキストを先生の恩師山口重克先生の著書「金融機構の理論」に決め、その輪読には時間をかけて取り組んだ記憶があります。挫折や手抜きが許容されない少数人数ゼミの厳しさはありましたが、議論への臨み方、文献調査の習慣、難読本との格闘術等を体得することができました。教室を出れば、先生を交えたゼミの飲み会も常時大盛会となり、メンバーに恵まれたゼミ活動は、厳しさと楽しさが共存する充実したものでした。

次に、「古株」から：新任・若手・自身の助教時代の先生と過ごした私には、先生の「古株感」を想像するのは難しいところですが、先生とゼミ生の年齢が年々離れていく一方で、ゼミそのものは先生と数多の卒業生が共に刻み培ってきた歴史や文化の下で先生が理想とする形に近づき、まさに完成を遂げようとしていると想像しております。

次に、「学生時代」から：私事ですが、平成19年に京大公共政策大学院生となりました。北大時代は、教室に出没するよりも、爽風戦や中央ロウンや植物園の木漏れ日の中で本を読み耽るか、バイクで道内を巡っていたのですが、京大では、覚悟を決めて学業を優先しつつ、空き時間には古都散策を楽しみました。京大には学究の自由があり、北大には美し

い環境と緩やかな時の流れがあり、両学ともに学者に寛大です。振り返れば、貴重で贅沢な時間が私の学生時代にはありました。実りある時間を与えてくれた岡部先生とゼミの仲間らに改めて感謝します。最後に、「在任中」から：先生と最後にお会いしたのは平成11年の夏のこと。先生の在任中に必ず訪れたいと思います。

### 4 ゼミ訪問記

北大経済学部の卒業生にとって、学生時代を振り返る最も印象に残るのは「ゼミ」だろう。

今回は学部きつての古株、社会経済学の岡部ゼミを訪問させて頂いた。岡部先生は東北大学卒業後大手都市銀行、東大を経て昭和62年に助教として北大に。爾来30年北大一筋に教鞭をとってこられ、数多くのゼミ生を輩出してこられた。



手渡されたこの日のテキストはヴォルフガング・シュトレークの「時間稼ぎの資本主義」。極めて今日的なテーマだ。当番のゼミ生が作った資料もと交ら、岡部先生のリードでいきなり論点の核心部分に絞られる。出席のゼミ生18人は事前に周到に読まれたのだろう、直ぐに反応していく。議論が噛み合わないとい先生からわかりやすい具体例が示され、質疑が活発化していく。これが将来に栗原君の書いた「与えられた文献の枠を飛び越えた知識を得ることを目的とした輪読」なんだと得心した。

最後に、OBの橋本さん、中村さんも誓っておられた恩師への訪問、これは皆さんも是非見習いましょう。この連載企画の大きな意味でもあります。(6月12日記)

制作協力  
4年 栗原貴史、嶋田海人、伊藤祐乃介  
3年 十河 泰

# 同窓会長賞 受賞にあたって



中森 勝也  
(平成29年卒)

この度は、平成28年度北大経済学部同窓会長賞に選出いただき、誠にありがとうございます。このような名誉ある賞をいただくこと、大変嬉しく思っております。私の卒業論文は、「リーダーの経験と価値観——テキストマイニングにもとづく分析——」という題目です。その内容について、簡単にご紹介させていただきます。

本研究の目的は、日本の優れた経営者が、幼少期から経営者として活躍するまでの間にいかなる経験を積み、その経験によっていかなる価値観が形成され、その価値観がどのように変化してきたのかを明らかにすることです。この研究テーマのきっかけは、ゼミナールでの活動を通じて日本企業をリードしてきた多くの偉大な経営者の存在を知ったことにあります。社会生活をより豊かなものにするために、これまでにない製品・サービスを生み出した企業の経営者や、経営危機にある企業を救うため組織改革を成し遂げた経営者の功績を知り、社会や企業におけるリーダーの役割の重要性を強く感じました。一方で、目下の日本企業では、将来の経営活動を担う新たなリーダーとなる人材の不足が指摘されています。このような経緯から、優れたリーダーを育成し選抜するためにはどのような要素が重要なのかという疑問に至り、この疑問のもと日本の優れた経営者がいかなる経験を

したのか、そしてその経験からいかなる価値観を養っていったのかという点に注目しました。

研究対象には、2名の経営者を選択しました。1人は、京セラやKDDIの創業者である稲森和夫氏です。もう1人は、経営危機にあった日立製作所の経営改革を行った川村隆氏です。両者を選択した理由は、経営者として活躍した時代が比較的現代に近いことや、2次資料の収集が容易であったからです。

本研究では、テキストマイニングと呼ばれる内容分析の手法を用いました。内容分析とは文章などの質的データを対象に、コミュニケーションの送りの心理的側面などを分析する手法のことです。そして内容分析の手法であるテキストマイニングとはコンピュータによって文章中で使用される言葉の頻度や特徴について統計的手法を用いて明らかにする分析手法のことです。本研究では対象者が自身の半生を綴った文章である「私の履歴書」(日本経済新聞の連載記事)のテキストを対象にテキストマイニングを行いました。その分析結果をもとに、文章中の言語の特徴や使用頻度、時代ごとの価値観のバランスの変化、価値観の変化に影響を与えた経験について、さらに分析を進めました。

分析の結果明らかになったことは、以下の3点です。第1は、経験と価値観の関係性です。両者の分析結果から、特定の経験は特定の価値観の形成と結びつく傾向にあることが分かりました。例えば、他者や組織に対して大きな責任を伴うプロジェクトのリーダーとしての経験などは、利他的な行動を重視する価値観の形成に作用することが示されました。第2は経験の回数と価値観との関係です。キャリアを通じて繰り返し経験した出来事であるほど、その経験に関係ある価値観の形成に強く作用することが分かりました。第3はキャリア早期における経験の重要性です。キャリア早期における経験は特定の価値観の形成に作用する傾向が強いことが示されました。これは学生時代における経験や、入社後

の比較的早い時期に経験した出来事の重要性を意味しています。例えば、稲森氏の場合では名門中学校の受験に失敗した経験がこれに該当し、川村氏の場合では学生時代に原子力の研究を行った経験などがこれに該当します。分析結果をまとめると、次のようになります。

まず入社前の経験の重要性です。リーダーの育成に関するこれまでの研究の焦点は入社後の期間に当てられていたため、入社前の経験についての研究は必ずしも十分ではありませんでした。しかしながら、本研究ではリーダーの成長にとって重要な経験が入社前にも存在することが明らかになりました。次に、経験と価値観の関係は、キャリア全体を通じた一連のサイクルとして機能しているということが解明されました。経験が価値観を形成することでその価値観に基づく行動が促進され、さらに価値観を強化するという一連のサイクルがキャリア全体を通じて連鎖することで、価値観が形成されていくということが分かりました。この点でもキャリア早期における経験は、その後の行動を規定するという点で重要な要素であることが示されました。

卒業論文の作成過程では、多くの学びがありました。まず資料の読み取りや分析結果の考察を通じて、物事を多面的にみる力や論理的な文章を書く力が養うことができました。ここで学んだことは、修士論文の作成や社会人として働く上で大いに生かしていきたいと考えています。また学部4年間を通じて身につけた経営学の知識に基づき、自ら問いを立てて、その問いを明らかにし、研究を完成させることができたこと、そしてその研究が同窓会長賞という形で評価していただけたことは、今後の人生を支える大きな自信となりました。論文の執筆にあたっては、多くの方々にお世話になりました。指導教員の岡田美弥子准教授には、研究の構想段階から添削に至るまで、大変熱心なご指導を賜りました。また、切磋琢磨しあつたゼミナールの仲間からは多くのアイデアをいただきました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

札幌の家具付き賃貸ならノースステイ

## North Stay

North Stayは、札幌でウィークリー・マンズリーマンションや家具家電付の賃貸マンションを運営しております。ご旅行や出張など、お客様のあらゆるシーンにあわせて、快適な住居空間をご提供させていただきます。

(ノースステイホームページ)  
[www.north-stay.com/](http://www.north-stay.com/)

札幌市内トップクラスの情報量

## 札幌 オフィス 検索

札幌オフィス検索は、札幌の賃貸事務所・オフィスなどへ移転をお考えのお客様に最新の物件情報をご紹介します。ご紹介物件数・更新頻度ともに札幌エリアではトップクラスです。仲介手数料半額による格安なコストでの移転をサポートします。

(札幌オフィス検索ホームページ)  
<http://of-sapporo.jp/>



株式会社 貸貸生活

代表取締役 佐藤 有

こちらのフリーダイヤルまでお気軽にお問い合わせください

【ノースステイ受付窓口】

【札幌オフィス検索窓口】

フリーダイヤル

0120-277-271

フリーダイヤル

0120-989-865

〒060-0062 北海道札幌市中央区南2条西9丁目1-2 サンケン札幌ビル2F  
TEL 011-206-8996 / FAX 050-3737-3109

□ 貸貸生活のホームページ

[www.on-1.net](http://www.on-1.net)

# 就職状況

就職率はほぼ100%。かつ希望通りの就職先ともいう。数年前まで長く続いた「氷河期」を思えば隔世の感さえある好調ぶりだ。業種別トップは昨年に続き「金融・保険」、以下「サービス」「情報・通信」「公務員」と続く。今年「電機」などメーカーが伸びた。「日本経済は5年目を迎える安倍政権の下、完全雇用の実現といざなぎ景気に匹敵する持続的拡大を続けている。アベノミクスによる『デフレ脱却への挑戦』はなお道半ばである」(早野利人・前中部大教授・昭和44年卒)との指摘は在学生にとって心強い限りだ。

【5名】北洋銀行、札幌市、北海道

【4名】日立、富士通、みずほ  
フィナンシャルG

【3名】NEC、三菱電、りそな  
ホールディングス、三井住友銀行  
商工中金、道銀、道財務局

【2名】安藤・間、旭化成、セイ  
コーエプソン、トヨタ、新日鉄住  
金ソリューション、三菱UFJ信  
託、住友生命、アクセンチュア、  
練成会G、ニトリ、北電

【1名】大林組、住友林業、太平電業、千代田化工、広島建  
LIXIL、アサヒG食品、北  
の達人C、サントリ、J  
T、帝人、ワールド、ADEK  
A、協和メデ、住友化、積水  
化、富士興、三菱ガス化、JF  
E、新日鉄住金、OTTO、日  
軽金、セイコー、パナソニッ  
ク、村田製、川崎重工、ケイ  
ミュ、レンゴ、関西電、ア  
ンビション、SCSK、NTT  
データ、ドコモ、FBS、クオ  
リサイトT、STV、セレス、  
DMM、Donuts、NTT東  
本、富士通システム、マクロミ  
ル、三井情報、メンバーズ、P  
CA、JXTG、アグレック  
ス、HARP、札幌信金、秋田  
銀、JCB、道労働金庫、ビジ  
ネスパートナー、中国高新投、朝  
日生命、損保J、日本生命、三  
井住友海、明治安田、札幌駅  
開発、シエアのり、東急リバ、  
ビッグ、藤井ビル、三菱Aリー  
ス、三菱地所、中国恒大、楽天  
リップセンス、レジエ  
ンドアプリ、ワーク  
スアプリ、川崎汽船  
商船三井、東京地下  
鉄、苫小牧埠頭、日  
本郵便、北海道J  
R、スカイJ、日通  
商事、日本キヤタピ  
ラ、三井物産、モロ  
オ、コープさっぽろ、  
道生協、アサツーD

K、新日本監査、ビーワークス、  
エージェンシー、シグマクシス、  
Deloitte、ブレインパッド、JT  
B、三澤経営、ペイロール、観月  
園、JTB北海道、BnC、プシ  
ロード、想起舎、聖霊福祉社、新  
潟商工連、マイナビ、航空自衛隊  
厚労省、北陸財務局、静岡県、高  
島市、浦和市

以上、修士博士卒業者を含みます。  
ビジネスや会合などで「後輩」と  
判った時は温かくお声掛けをお願  
いします。



## 恩師の異動

平成28年9月  
助教 深山 誠也  
高知大学へ

平成29年3月  
教授 西部 忠  
専修大学へ  
助教 池見 真由  
北大・地域経済経営  
ネットワーク研究セ  
ンター研究員へ

平成28年度

## 経済学部 同窓会総会・懇親会

例年通り、9月24日  
ホームカミングデー当日  
に「総会」と「懇親会」  
を開催しました。

それに先立つ記念講演  
会(パネル討議)には一  
般市民合わせ多くの来場  
者で会場は満杯となりま  
した。その後は同窓会総  
会が行われ収支報告と次  
期活動方針などが承認さ  
れました。

午後5時半より中央食  
堂に集まり文系4学部合  
同の「懇親会」が賑やか  
に開かれました。大学か  
ら来賓のご挨拶をいただ  
いた後は、生協特製の料  
理を囲んでいくつもの歓  
談の輪ができ、遠方より  
来られたOBも久方ぶり  
に旧交を温めておられま  
した。  
今年も9月30日に行い  
ます(詳細は17ページ)。  
この機に合わせ同期会や  
先生を囲む会など企画さ  
れては如何でしょうか。





# 近代経済学とマルクス経済学の時代と私



板谷 淳一  
北大経済学部教授  
(昭和53年卒)

私は昭和49年に北大の文類課程に入学しました。残念ながら、入学式は行われず、学生運動の活動家によるハンドマイクの大音響が響く混乱の中、昔の教養部の前で入学手続きをしたことを今でも鮮明に覚えています。これが、学生運動との最初の出会いでした。そのあと、説明会を受けるために教室で待っている間にも活動家らしき学生数人がハンドマイク片手に教室にドヤドヤと入って来て、アジ演説を行っていきました。テレビで見たことがあるだけの遠い世界の出来事であるアジ演説や学生運動各派による小競り合いなど、北大の構内で現実に見ることになりました。しかし、私のようなノンポリ学生（政治や政治活動に無関心な学生はノンポリ学生と呼ばれていました）には、彼らの口から頻りに飛び出す「国家独占主義」や「日本帝国主義」や「米帝国主義の手先」あるいは「革命」などという言葉が、どうしても現実感のある言葉としては響きませんでした。加えて、親のすねをかじる国立大学の大学生でありながら、本気で革命を起こしたいと思っているのだろうかという素朴な疑問を感じざるを得ませんでした。また、活動家のアジ演説や立て看板において、しばしばマルクス経済学（あるいはマルクスの「資本論」）を引用しているのを見聞しました。私がマルクス主義経済学に反発して、後に近代経済学を学ぶようになったのも、なんとなく胡散臭く感じていた学生運動に対する反発という原体験があったのかもしれません。

当時は文系の学生は全員、文類課程に入学して、2年から3年になる時に、どの学部に進学するかを決める必要がありました。経済学部を選んだ理由の一つに、当時、教養部で教えておられた黒田重雄先生の授業で紹介された1冊の本がありました。その本とは、サムエルソンの「経済分析の基礎」という本でした。偶然、この本を本屋で見つけ、翻訳者である佐藤隆三先生が書かれた序文を読むと、この本の翻訳出版が遅れた理由は、戦後間もない時期にこの本を出版しても、この本を理解できる読者人口が少なかったからだと言われていました。専門の経済学者も読みこなすことが困難であった専門書を、学部1年生の授業の参考文献に掲げた黒田先生の真意は今となつては計りかねますが、学生にとつては決して安いとは言えないこの本を思い切つて買って挑戦することにしました。しかし、案の定、全く歯が立たず、何かすこいことが書いていけるなくらいしかわからず、とにかく近代経済学を理解するためには行列やラグランジュ関数などの数学ツールを勉強する必要があります。この本の出会いがきっかけになり、経済学部への進学を決めるとともに、私は迷わず近代経済学（近経）のゼミナールを選ぶことを決めました。当時、近経のゼミは小林好宏先生ゼミ、早川泰正先生ゼミ、所哲也先生ゼミ、白井孝昌先生ゼミと4つで、少数派でした。マルクス経済学関係のゼミの方が多数派であり、学生の人気も高かったように思います。人間

を疎外する資本主義経済を批判して、やがて、社会主義社会というユートピアが革命によって実現されるというストーリーは多くの純粋無垢な若者の心を惹きつけたのかもしれない。おそらく、この小文をお読みになっている諸先輩の方の中にも、マルクス主義の思想やビジョンに魅力を感じて、ゼミではマルクスの資本論を読んだ経験をお持ちの方も多いいのではないのでしょうか。それに比べると、近経の教科書には数式やグラフばかり並んで、お世辞にも読んでいて楽しくわくわくするものとは言えません。私は迷つた末、近経の中で最も人気の高かった小林好宏先生のゼミに入りました。小林先生のゼミには、学者になろうとする先輩や小林先生にお酒を教えるような猛者のような先輩など多岐にわたる方々がおられ大変刺激なゼミでした。また、小林先生は大変寛容な人柄の方で、研究室にお伺いすると、私のような学生に対しても、いつも近経の考え方で現在の経済問題をどうとらえるかというアイデアをうれしそうに語っておられたのを覚えています（小林先生は2013年12月22日にご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます）。

しかし、学部に移行後、私は北大の経済学部は近経を学ぶ上で大変不利なところであることに気がつきました。正直に言いますと、当時から近経のスタッフが充実していた小樽商科大学に行くべきであったかと、若干後悔したほどでした。理由は提供されている近経の科目が少なすぎることでした。大学院に進学して、研究者になろうという明確な目標があったわけではありませんでしたが、まじめに近経を勉強したいと思っていた学生とつては、北大経済学部の当時の状況は私にとつてはあまりハッピーな環境であったとは言えませんでした。さて、小林先生のゼミでは、当時、丸善から出版された英語の新書「一般理論」でケインズの「一般理論」を読んできました。正直、難しかったというのが印象です。まず、イギリス人の凝つた英語で書かれていたこともさることながら、ケインズの「一般理論」はその解釈を巡って学会で何十年にわたり論争されているような難解な本でもありました。黒田先生が紹介されたサムエルソンの「経済分析の基礎」やケインズの「一般理論」のような難解な本が昔の大学では当たり前のように使われていた事実は、今から考えると、やはり驚くべきことだと思えます。現在、わたしのゼミでも英語の原書を輪読していますが、英米の大学で使用されている学生向けに書かれた標準的なテキストを使っています。原書の講読は地味な作業であり、語学の授業と同じであり学生には評判はよくありません。しかし、英語は少なくとも卒業時点までは高校卒のレベルを維持すること、企業では英語が絶対必要であること、あるいは、一生に一度くらいは英語の原書を一冊は読了したという経験を持つていれば、自分の息子や娘に自慢できるなどという理由をつけて、学生には原書の輪読を強要しています。さて、結局、私は大学院に進学することに

なりました。自分が研究者としてやっていくどうかはわかりませんが、修士課程（2年間）終了後就職しても、長い人生においてそれほど大きな遅れにはならないと思ったのでした。私が修士課程に入学すると同時に、新しく内田和男先生（マクロ経済学）、小野浩先生（国際経済学）、今泉佳久先生（財政学）が北大に赴任されて、近経の陣容が大きく充実した時期と重なりました。特に、内田先生や小野先生らの大学院での熱心な指導がなければ（もちろん、小林先生を含めて）、私自身研究者としての人生はなかったのではないかと思うほど、お二人にはお世話になりました。他には関口恭毅先生から数学の手ほどを受け、黒田先生から統計学を学ぶことができ、私の研究者人生において大きな資産となりました。しかし、やはり、近経の最も進んだアメリカの大学に留学したい気持ちが強くなり、さらに、ブラウン大学でM.D.を取られた小野先生の強い勧めもあって、アメリカ留学は私にとって、既定路線となりました。修士2年目からその準備を始め、複数校から入学許可を受け取りました。入学許可がもらえた大学の中には結構な有名大学が含まれていました。有名大学から入学許可がもらえた大きな理由の一つは、小野先生に書いて頂いたブラウン大学への推薦状と元小樽商科大学長の藤井栄一先生に書いて頂いたロチェスター大学への推薦状の効力にありました。アメリカは競争社会に見えますが、信用されている先生が書かれた推薦状は大変強力であり、ある意味ではコネ社会でもあるように感じました。結局、奨学金を受けているロータリー財団（石垣博美教授に強力な推薦を頂きました）の意向でロチェスター大学に行くことになりました。ロチェスター大学は卒業生に

有名な日本人経済学者が多数おり、後年、卒業生のネットワークに入ることができ、研究者として様々な恩恵を受けることになりました。

ロチェスター大学から苦労してM.D.を得した後、幸運にも学生時代からあこがれていた小樽商科大学に奉職することができました。そこで、11年ほど働いた後、北大の大学院重点化の時に、運良く母校に戻ることができました。その後、20年近く北大で学部学生、院生を指導してきました。

こうして私の人生を振り返ってみますと、研究者としてあるいは教育者として40年近くもやってこられたのも、多くの幸運と北海道大学経済学部の諸先生方のおかげであることをつくづく感じます。最後にこの場を借りて、鬼籍に入った先生もおられますが、これら諸先生に深く感謝したいと思います。個人的な感想をもう一つ言わせてもらえば、学部時代に受けた諸先生の授業内容を結構覚えていて、なあとという感想です。自分が行ったゼミや授業の内容の一部が学生の脳裏のどこかに残っていて、何十年後にあの先生はなんといい加減なことを言っていたんだらうと思えば返される可能性を考えると、いい加減な学部授業はできないと改めて襟を正す思いです。また、学部時代に聞いた講義はその後の私の人生に大きな影響をあたえているように思いますが、そんな事を感じるのも、私のように大学に関わる者だけでしょうか、皆様はどうでしょうか。学部時代の授業なんかきれいさっぱり忘れてしまうのか。マル系、近経を問わずお名前を挙げさせて頂いた諸先生のゼミや授業を少しは懐かしく思い出していたら、この小文の役割は十分果たしたと思うので、このあたりで筆を置きたいと思います。

## 経済学部東京同窓会の「報告

経済学部東京同窓会は毎年秋頃に開催しており、昨年の11月2日に「恵比寿ビヤステーション」にて開催されました。

2年毎に経済学部単独での開催と法学部と合同開催を交互に行なっており、今回は法学部との合同開催で、経済学部から27名、法学部、ご来賓と合わせて69名にご出席頂きました。

毎回、懇親会に先立って第一線で活躍されている同窓会員や北大からお越しいただいた学部長に講演会をお願いしており、今回は北大東京同窓会長の

杉江和男会長より、六月に発足した「北大校友会エルム」の設立経過、目的等についてお話を頂きました。

講演後の懇親会では来賓を代表して町野経済学部長と長谷川法学部長にご挨拶頂いた後、経済学部同窓会長の上野先輩のご発声により乾杯、その後はOB、OGそれぞれの近況報告や新たな交流もあちらこちらで見られて、お開きの時間をお伝えするのがはばかられるほどの盛況でした。

懇親会のお開きは北大卒業生が集まった時には欠かせない恒例の「都ぞ弥生」で締めとなりました。

同窓会では世代、業種など垣根を超えた交流ができて、出席すると楽しく、また刺激も受けることが出来ますので、今後も多くの同窓生に出席頂きたいと思えます。

今年度は10月から11月に経済学部単独で開催する予定です。

関東にいらっしやるお知り合いのOB、OGがいらっしやいましたら、事務局藤井（e-mail: iijut@frontier.hokudai.ac.jp）にお知らせいただければ幸いです。

最後に、今回の同窓会では遠く札幌から町野学部長及び上野経済学部同窓会長にご出席頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。

東京同窓会事務局

藤井孝先（平成7年卒）



# 同窓生の近況



## 学生時代の回想など

居城 弘 (昭和40年卒)

な入試問題作成に毎年苦勞を重ねていたことと合わせて、考えさせられる。入学後の履修ガイダンスが、わら半紙一枚が配られただけだったことも、時間をかけて懇切丁寧にガイダンスが行われる今日の状況からは、隔世の感があるというべきか。

授業の思い出の一つは教養科目のことで、いまだに鮮明によみがえってくるほどの影響を持続させているものがある。ダンディなスタイルで、魯迅をはじめとする中国の近代文学の歴史について静かに語りかける風景であったり、学長自身が日本の科学技術や化学産業の現状についての信条を吐露する講義や、英語やドイツ語の外国人教師による、何気ない一言がいまだに影響を与えている。専門の科目とは違った教養科目の「有効性」、「可能性」を考えさせられたりしている。最近では「リベラルアーツ教育の再生」が見直されているようであるが、古くて新しいテーマなのであろう。

教育理念の実現に向けた模索が進められていくことに期待しているところである。

退職後は、念願だったヨーロッパの国々へのんびりとぶらぶら歩く、ひとり旅を楽しんだり、市民農園で汗を流すこととか、非常勤で教育を担当しているほかに、地元の原発再稼働をめぐる市民活動に参加したりと、文字通り、気ままな生活を続けている。ところで、静岡には香谷の長源院境内に「都ぞ弥生」の歌碑がある。赤木頭次君が卒業後、静岡県の農務官僚として活躍したことを記念して、地元同窓生の協力で建立されたものである。そこでは札幌での若き日々を思い出して相集う機会もある。我が母校が個性あふれる伝統を受け継いでいってほしいと思っている。

卒業しておよそ40年が過ぎた。学生・青春時代を振り返ると忘却の彼方に消えゆくもののほうが多いが、なかには鮮烈な印象を持つてよみがえってくる記憶がある。懐かしさとともにほろ苦い悔恨の思いもまとわりついているのが青春なのであろうか。北海道での新しい生活に期待と不安を抱きつつ、連絡船の汽笛を体が震える船底で聞いたことを思い出す。卒業後、大学院と助手生活を合わせて11年の札幌の生活のうち、本州で大学教師の職に就き、定年を迎えて今日に至っている。おぼつかない記憶の糸を手繰り寄せつつ、回想してみよう。

入学したのは「大学紛争」の余燼いまだくすぶる頃であった。最初の夏休みにはヒッチハイクに挑戦した。生来の放浪癖、特に辺境への憧れから、稚内からオホーツク海沿いに知床まで歩いた。トラックは手をあげなくても乗せてくれたし、複式学校を兼ねていた灯台や、お寺であるとか、若い先生が当直していた学校の宿直室等にも泊めてもらった。その頃の語らいやふれあいはいまもはっきり覚えている。当時の知床は交通機関もなく、営

林署の車に乗せてもらって先端まで行き、夕焼けに感動したことを思い出す。こんな気ままな旅を重ねて、北海道の海岸線のほとんどを訪れることとなった。天北原野での牧場生活も忘れられない。牛を中心とした生活で、乳搾り、牧舎の掃除、放牧、牧草つくりと運搬、初めて経験する重労働の連続であった。また折からの炭鉱閉山による大量の離職者問題の発生、地域社会の解体に、サークルで調査に入ったり、「北の守り・自衛隊」の基地をめぐる裁判にも首を突っ込んだ。北海道の自然や社会についての私自身の原体験である。大学や学生生活で思い起こすことでは、一つは当時の北大では入試の科目数が多かったことである。たしか理科、社会がそれぞれ2科目選択であった。入試の制度は大学から受験生へのメッセージでもあるから、科目数の多さを負担と感じるか、リスク分散の可能性と受け取るかは、それぞれであろうが、他大よりも科目数が多いのだという自負とともに、幅広いオールラウンドな勉強を促すものとして、一つの見識であったと思う。共通一次やセンター試験以前には、各大学が個性的

北大の教育システムが、入試と連動して教養課程では、「文類・理類」と緩やかな大くりの中で、将来の専門への進路をじっくりと選択・決定する「学部移行」の制度をとっていたことは大きな特徴であったろう。当時から、教養の時の成績による点数制で決まることなどの弊害が指摘されていたが、入学後にゆっくりと専門への進路を決める【レイト・スペシャリゼーション】という仕組みは、問題点の改善によつては、なかなか素晴らしいものではないかとも思う。その後、自らも大学教育に携わる中で、学生の進路決定において、柔軟なシステムがなかなか定着しないこと、(転学部・転学科)について、現実には極めて狭い門であることなど、硬直的運営に直面するたびに考えさせられてきた。最近でも、「文理融合型」や「学際型コース制」など、学生の学び方や新しい





## 五十にして学ぶ、 また楽しからず也

佐々木 泰行（昭和63年卒）

故郷かつ学びの地であった札幌を離れて29年が経った。金融機関での産業企業調査研究という仕事を得、三回の転職と一回の破綻という得難い経験もすることができた。そろそろ川上りをする「ほっちゃんれ鮭」のようにクダビれて来ている。髪も随分白くなった。

そんな自分だが、週に何日かの平日と土曜日はスーツにおおよそ似合わないリュックを背負って会社に出勤する。中には、分厚い教科書とノートとレジュメファイルが。肩に食い込むこのきつさは退社後や土曜日の朝、ある地下鉄の駅で降りる時にしばし忘れることができる。その駅の名は「早稲田」。早稲田大学の最寄り駅だ。

今、僕は「早稲田大学経営管理研究科」の二年生。いわゆる社会人向け夜間大学院の学生である。見かけは「よっしゃれて」はいるが、れつきとした学生で、学生証で映画を割引で見ることができて、社会的にきちんと認められた学生なのである（エヘン）。

長年、産業企業調査研究という職種を続けることができたことは、多くの有益な事例やお話を見聞きする機会を得た。振り返ればとても有り難いことだったと思う。

しかし、50歳を過ぎた頃から、その見聞きしたものを本当の価値にしているのかと疑問に思うことが増えた。其々の事例は「知っているもの、それを体系だつて「理解」しているわけではない。わかりやすく例えれば、「小石」はたくさん集まっても「岩」ではない、そんな感じだ。いずれ、小石は水に

流されて砂粒になってしまおうだろう。その前に、小石を岩にすべく、漠然と「もう一度勉強してみようか」と考えるようになった。

受験する大学は既に決まっていた。作家の五木寛之先生の母校である早稲田大学だ。先生の第一エッセイ集「風に吹かれて」は早稲田時代の貧乏生活や思い出がふんだんに綴られた名著である。中でも最終章とあとがきには、「根無し草（デラシネ）」として生きていく決心が語られ、それはルーツが「ここであって、ここではない」と感じていた多感な青春時代の道産子の自分に重なり、今に至るまで自分のアイデンティティを確認する書となっていた。加えて、現役、一浪、二浪と三回も受験して不合格となった早稲田を、どうして今受験しない理由があるのか。

かくて、33年ぶりに「願書」というものを書いた。久々に北大経済学部の事務局にお願いで卒業・成績証明書を送って頂き（無事卒業していることに安堵した）、膨大な量の職務経歴書と論文計画書を同封して、僕は再び受験生になったのである。

海千山千の社会人を相手にしてきたため面接がうまくいったのか、それとも50歳を越えてまで受験しようとしたオジサンを可哀想に思ったのか、何はともあれ、あこがれの「早稲田の大学院生」にはなったのである。

院は：しんどい。まず履修すべき科目やその登録方法（今はコンピュータで登録する）、単位の計算方法のマニュアルを300ページほど読むところから始まった段階で投

げ出したくなった。しかし、持つべきはやはり学生時代の友である。29歳といううら若き優秀な女子学生（同級生）が、「あ、これはね」とささっと教えてくれる。業務終了後の平日の講義は22時まで、それから講義の興奮を覚ますべく終電まで近くの学生居酒屋で飲む。土曜日は午前はゼミ、午後は講義で9〜20時までびっちり勉強漬けだ。経営戦略のレポートでは、久々に家の机に突っ伏して3日連チャンで寝て仕上げた。学部以来だ。

では、辛い？。そうは毛頭思わない。真冬の北大で吹雪の中、教養部から経済学部やクラ館に毎日行くことを考えれば、大したことはない。何よりも、自分の中の「小石」が「岩」になっていく瞬間を講義やゼミで感じた時の喜びは、久々に味あう「知」の快感だ。それは旨い酒や飯を飲み食いしたり、仕事でプロジェクトが上手くいくのとは一味ちがった快感だ。

目下の問題は修士論文の執筆である。駄文



## Take it easy それでもなんとかなりました

新沼 正史（昭和56年卒）

を書き散らすのは仕事柄、大の得意なので字数はクリアできるのだが、あまりにも多くのことの学びすぎてあれもこれもと欲張ってテーマを突っ込んで、「これでは因果関係の検証ができず、論文にならない」と指導教官に叱られる始末。もしかすると、来年の今頃もまだ二年生をやっているかもしれないが、それならそれも良いのではないかと考えられるのがオッサン大学院生の楽しいところ。

聞けば、大学はどこも少子化のため経営は苦しいようで、学び直しをしたいという社会人には大きく門戸を開いてくれている。学費は決して自分の小遣いから見ても安いとは言わないが、クルマを買って換えるのを一回我慢すればなんとかなるレベル。多くの大学院は秋冬に学生募集を行うので、久々にキャンパスというものを見に行くのも楽しいかもしれない。「五十にして学ぶ、また楽しからず也」というところの気分の昨今なのである。

現在、高校英語教師でもなく定年を迎えます。ゼミつながりで原稿の依頼を受けたものの、改めて今の自分には北大経済学部がらみのネタがないことに気づきました。自分の卒業後の歩みは、ほとんどの経済学部同窓生とは違っていろいろですし、自分でもまったく予想外の展開でした。ここではこれまでの自分を振り返って近況報告に代えたいと思

います。教師をしていてつくづく思います、今の学校はきめ細かく進路指導をします。生徒は高校1年からかなり具体的に職業について考える機会を得ます。担任も生徒の希望・学力を丁寧に分析し、面談を通じてさまざまな選択肢を提示します。大学名ではなく、まず生徒の興味・関心、○○学科、そして○○学部

です。教師をしていてつくづく思います、今の学校はきめ細かく進路指導をします。生徒は高校1年からかなり具体的に職業について考える機会を得ます。担任も生徒の希望・学力を丁寧に分析し、面談を通じてさまざまな選択肢を提示します。大学名ではなく、まず生徒の興味・関心、○○学科、そして○○学部

機会あるごとに生徒に調べさせ、保護者と相談し、1〜2年かけてやっといくつかの大学の名前にたどり着きます。総合学習ではアクティブラーニングも行われ、議論し、協力し、発信できる生徒を育てようとしています。生徒もそういう指導やアドバイスを受け入れ、前向きに考えているように見えます。

翻って自分。高校時代は授業が面白い一部の教師だけを慕い、その他の授業では失礼ながらぼーっと外を眺めたり、時には部活への体力温存を考え睡眠学習をしていました。大学進学モチベーションは、部活や勉強のプレッシャーのない自由気ままな4年間を手に入れたい―ただそれだけでした。北大文類を選んだのは、①数Iだけで受験可能 ②学部決定まで1年半の猶予 ③旧帝国大学の3つだけ。今の高校進路指導のあり方からすれば、もつともアウトです（この記事を勤務校の生徒がけっして読まないことを願っています）。

やりたいこともなく北大に入学しましたが、その反動は大きく、何にも興味を見いだせないままいたずらに時が流れました。そんな中、唯一の救いは寮生活でした。寮生から刺激を受け読書に目覚めました。何もなかった部屋の本棚が本で埋まっていたのが快感でいろんな分野に手をつけました。そしてやっと勉強したいこと―南北問題―が見つかりました。移行期限ぎりぎり学部とゼミを決めました。（経済学部所ゼミ（国際経済論））

初めて大学にきた意味を感じました。ゼミの仲間も最高でした。キャンプ、スキー、飲み会と世間並の大学生になれたのです。しかしそんな生活もつかの間、大問題が確実に迫っていました。仲間の就職がどんどん決まっていたのです。

自分はまさに経済学理論の前提となる考え方がびつたり当てはまる人間でした。すなわ

ち「労働は苦役であり、その苦の対価として初めて賃金を得る。」アルバイトすら苦痛でしたが、唯一さほど苦にならないバイトが家庭教師でした。そこで浮かんだ職業が教師（失礼な話です）。小学校教員の兄に、高校社会は倍率が高くて無理だが、もう一つ別な教科の免許を取れば可能性があると言われ、その時点で留年決定。5年次は文学部に通い英語の免許を得ました。

もちろん英語に自信はないので、採用試験は「政治経済」で受験しました。なんとか2次試験にすすむと面接では「英語で採用になったらやりませんか」で終始。ここに英語の採用試験を受けていない英語教師誕生です。

初任校は小規模校で、現代社会、英語をそれぞれ週9時間ずつ担当し、一見ユティリティー教師でした。もちろん経済学部卒なので社会科教師への未練たらたらでしたが、外堀を埋められ2校目からは100%英語教師で生きることになりました。独学で英語教師としての勉強を始めたのが29歳、そして今に至っています。

気ままな生活を求めて大学に入り、なんとか勉強したいことを見つけ経済学部に進み、就職は英語教師。この流れはまったく合理的でも有機的でもなく、コスパの面では最悪です。ただ、自分としては完全に結果オーライです。実に充実したおもしろい37年間を過ごしてきました。そのほとんどの期間でかわったバスケットボールは自分の教員人生の中で最大の財産です。卒業後10年、20年経過してもそのときのメンバーが飲み会に誘ってくれます。また、授業や課外（受験指導）の醍醐味もありました。自分の説明に大きくうなづく生徒、予想をはるかに上回る伸びを示す生徒、合格の歓喜、自分のギャグが受ける瞬間。

節目節目でいろんな岐路があったのですが、自分にとってすべての始まりは経済学部に進んだことです。先輩後輩諸氏のように、北大経済学部で学んだことがキャリアとして生きていく歩みではありません。現役学部生の参考



## 私にとっての北海道新幹線

佐々木 俊夫（昭和57年卒）

になることもありませんが、ひよっとすると将来の目標がなかなか定まらず不安を抱えている学生の気持ちが多少なりとも軽くなってくれることを祈って、近況報告ならぬ、人生なんとかなるさ報告、といたします。

平成28年3月、新幹線はついに新青森駅から函館北斗駅までの区間が開業しましたが、私にとつては、遂に北海道の大地まで新幹線が来たのかと特別に感慨深いものがありました。それを説明するには父の人生に触れる必要があります。父は札幌二中から北大予科に入学し、工学部土木工学科で橋梁（鉄橋）を専攻、昭和28年4月に国鉄本社に学士組（キャリア）として入社。子供の頃、鉄道が好きだったそうで、本望だったでしょう。父には「新幹線のスラブ軌道（社団法人日本鉄道施設協会発行）」という著書があり、巻末に退職までの経歴が掲載されています。名古屋鉄道管理局を振り出しに、鉄道技術研究所、東京鉄道管理局を経て、昭和38年9月に静岡鉄道管理局営業部専用線課長として赴任、母と幼稚園児の私とで官舎に住んでおりました。ある日、父が「新しくできた電車に乗せてあげるぞ」と言ってくれ、当日は母も一緒に静岡駅に行くと、ホームには見たことのないような形の白い真新しい電車（0系新幹線）が停まっていました。初めて見る新幹線だったわけです。父にうながされて中に入

りシートに座ると、フカフカでとても柔らかく、子供の私の体は沈み込んでしまいうように流れて、「こんなに速い凄い電車が来たんだ！」と子供心にも大変驚いたことを今でも昨日のことのように鮮明に覚えています。そんな私の様子を見て、父がとても満足そうな顔をしていたことも忘れられません。試運転ですので走行距離は短かったと思います。関係の資料を見ますと、昭和39年7月16日以降、東海道新幹線の試運転が東京〜浜松間で主に行われたそうです。

東京オリンピックの目前、同年10月1日に東海道新幹線が開業し、父は翌11月に東京鉄道管理局総務部企画室長となり、その後は保線・施設関係を歴任、本社新幹線建設局軌道課長を経て、最後は昭和53年に札幌工務局長として赴任することになりました。その内示が出る数日前に、都立小石川高校生であった私は一浪で北大に合格しており、これで親から離れて札幌で自由な学生生活を楽しめると喜んでいたので、まさか父も札幌に来るとは晴天の霹靂でした。同じ札幌で別々に暮

らすのは不経済だからと言われ、桑園の官舎で3年間同居しましたが、その当時にはすでに将来札幌まで新幹線が来ることは整備計画で決まっていたそうで、父はそのことを大変楽しみにしていました。これは父のホラ話の類かもしれませんが、「新幹線が来られるように札幌駅を少し改築したことで国鉄総裁から表彰を受けたんだぞ」などという話も聞いたことがあります。

さて、平成27年度のホームカミングデーで4学部合同（経済学部主催）の記念講演会「北海道新幹線開業が意味するもの」に参加いたしました。大変興味深い話を多方面にわたり聞くことができました。なかでも、「い



## わが人生に北大あり

大石 剛生（昭和58年卒）

東京生まれの杉並区育ち、大学に行くまで旅行以外で東京を離れたことはありませんでした。ここまでは内地と道産子が半々の北大学生にとって当り前のことかと思いますが、皆さまと違うのは卒業後サラリーマン生活を経験したことがないということです。

自己紹介が遅れましたが、現在東京杉並区の西荻窪駅前で洋菓子とフランス料理店を経営しております。

父（故大石總一郎）はいわゆる創業社長で、とにかく息子に後を継いで欲しいという当時よくある考え方をもちた経営者でした。私もいつのまにか漠然とではあります、父の仕事を見て育っていったような気がします。た

ままで、新幹線が来て経済効果が無かった例は無い」とのことが印象的でした。道庁のホームページを見ますと、札幌延伸による経済波及効果が掲載されており、①建設投資、②開業による経済波及効果、③税収効果が推計されています。前提条件をどう置くかにより結果は変動すると思いますが、観光・サービスマス業や新規開業などの面で、札幌のみならず北海道経済全体への大きな波及効果が大変期待されるようです。札幌まで延伸されるのは平成42年度末ですが、私ももう少しなんとか頑張つて（工期が短縮されることを願いつつ）、新幹線で東京から札幌まで行き、そのことを父の墓前に報告したいと思っております。

だし、創業社長にありがちな「強い父」というよりは短気な「昭和の雷親父」という印象で、（いつ爆発してもおかしくないという意味で）よくシェイカーでニトログリセリンをシェイクしていると例えておりました。ですから私も大学受験期を迎え受験校を選定する時にはいろいろ考えました。

東京の受験生は当然のように東京の大学を受けるものですが、このままだと父に精神的に抹殺される（洗脳される）と思い、父の会社に戻るのを条件に要求を出しました。

①大学4年間は家を出て自由に下宿生活をさせること、②留年せずに4年で卒業する代わりに、機会と能力が許せば外国留学をさせ

ること、の2条件をのませて学校探しに入りました。地方に住むことを東京の人間に納得させるのはなかなかたいへんで、いい私立大学があるのになぜ地方なんだとよく言われました。「やはり、旧帝大しかないなあ」と考えていると、たまたま、父の大学時代の恩師の御子息が北大法学部教授（伊藤大一大先生）になっていたとの情報で父を説得できました。次に下宿ですが、どうせ北海道まで落ちち（スイマセン）するなら、当時でも東京では見かけなくなった「賄付、トイレ共同、風呂・流台無」という典型的な昭和の下宿に行き着きました。同じ釜の飯を食うといいますが、35年過ぎた今でも毎年12月第2土曜日に当店にて下宿の先輩も後輩も集まって「都ぞ弥生」を歌っております。

次の留学ですが、当時インターネットもない時代、札幌での情報量も極めて限られていたため、卒業後一度東京へ戻りホテル学校に席を置きつつ店の仕事を手伝って準備をしました。卒業生でたまたま出会った方が米国ミシガン州立大学でMBAを取得し帰国していたため情報をいただきました。北大生はけっこう英語が得意ではないと思いますが、私ものひとり、ただ「語学ができるようになってから留学するつもりなら一生行けない」と言われ、とりあえず行けばどうにかなると思いい旅立ちました。その後地獄のような勉強が待っていました。なんととか2年半で修士号をいただきました。

英語学校から修士の本科生になるにあたり忘れられない話があります。当時の入学を許可する責任者の教授に呼ばれ、「日本の北海道大学でこの程度の成績では本学には入学させられない」と言われたことです。（日本の大学の情報を日本人が思う以上に所有していると感じました。）今なら恥ずかしくて言えないでしょうが、当時は生意気にも、その教

授に向かって「あなたが私を落とすのは勝手だが、私も人生をかけてここに来ている。このままでは日本に帰れない。ここで私の人生を切り捨てて何とも思わないのか。クラーク先生の言葉『少年よ大志を抱け』を信じてここまで来たのに」等々言うと、では北大生の実力を見せてもらおうじゃないかという話になり、半年で4教科、アメリカ人でも厳しいオール優をとり続けられたら考え直してやろうということになりました。売り言葉に買い言葉で「やつてやろうじゃないか」以下わたしの実力では大変な学生生活が数ヶ月に亘って続くこととなりました。今思うとこれに乗っ切れたのは北大を出たという勝手な自負のせいだったのでしょうか。しかしアメリカはチャンスを与える国だと実感しました。その後1年弱パリで料理人の仲間を作るべく生活をし、帰国しました。

帰国後は約東通り今の店に戻り、父の抱持ちから仕事の修行、経理（というところ聞かえがよいですが、借金返済との戦い）等いつの間にかこの年になってしまったというのが実感です。いろいろな土地でいろいろな生活してきましたが、人生の転機となったのはやはり北大への入学とそれぞれの地での出会いだと思います。自分では何もできなかったのですが、何とか今日までやってこれたのも多くの人々に助けられたおかげだと、皆様への感謝の気



持ちでいっぱいです。その父も亡くなって10年以上になります。やはりあのときの反発も含め、家を出てよかったと今更ながら思います。

今回原稿の依頼があり、勢いでおよそ40年



## 納得ずくの人生、 そして不意打ち

君嶋 千佳子（昭和48年卒）

位前の昔話を記憶の底から引っ張り出して書いてしまいました。このへんで筆をおくことにします。ありがとうございます。  
（大総商事株式会社 けし屋（JR西荻窪駅前）代表取締役社長）

卒業後、民間会社勤務を経て、公務員試験

を受けました。結婚・子育てをしながら仕事を続けるには、と考えた結果でした。仕事内容の点では、働く人に関わる仕事をしたくて、労働省（当時）の出身である公共職業安定所を希望しました。神奈川県内5所で、職業相談をはじめ、雇用保険・求人に関わる仕事等に36年間携わりました。

その間、現在の非正規雇用の蔓延に繋がる労働者派遣法の制定及び度々の要件緩和、パブルの崩壊・リーマンショック時の大リストラ、規制改革の名を借りた労働法制の度重なる改訂等々、日本の働き方が変容していく様を身近に見てきました。そして、働き方がどれ程それぞれの人生に、時々の社会に影響を与えるかを、実感してきました。

定年退職と同時に、法政大学の修士課程に進みました。北大在学中は賃金論のゼミに属し、仕事も雇用・労働問題に関わってきましたから、これらの問題意識を深めたかったことがその動機です。修士論文は、派遣労働の本質とその影響をテーマとしました。派遣労働が働き方を困難なものにし、労働者を追い

詰めている状況に数多く接してきました。

労働者派遣による雇用者と使用者の分離は、それぞれの責任を曖昧にすることを可能とし、働く人を物の如く扱うケースをも招いています。細切れ雇用は先を見通すことを困難にし、次世代形成を阻害しています。派遣労働の増大は、非正規雇用を常態化させ、働き方のみならず、日本社会のあり方をも大きく歪めてきました。今や社会の持続性が問われています。

博士課程は中央大学に進みましたが、その後間もなく、2013年川崎市長選挙出馬の依頼を受けました。予定外の話ではありましたが、必要性和意義が認められることは、基本的に断らない人間ですから、市民の暮らしを守る市政にしたいという思いで、選挙戦に取り組みました。当選には至らなかつたのですが、川崎の北から南まで駆け巡り、その先々で皆さんと思い通わせ、とても楽しい選挙ができました。

続いて2014年、神奈川県議会議員立候補の要請がありました。安倍首相は憲法を変えると公言し、その年には、集団的自衛権行

使容認の閣議決定を強行しています。その翌年4月が神奈川県議会議員の選挙でした。私は、平和と民主主義そして憲法を堅持する議席を、地方も国も一体となって増やしたい、この思いから立候補しました。もちろん、神奈川県政を住民と地域の営業を守るものに変えて行きたいという思いとともに。

私は、再び元気に選挙区を駆けまわり、手応えある選挙を繰り広げることができました。その結果、議席を得たのですが、共に取り組んだ仲間が、選管立ち合ひの際、私の票の束、その厚さに「目を疑ったよ！」と後に語っていました。私は「疑うなよ！」と思いましたが、それほど届かない峰、だったのです。

地域を回り皆さんの声を聞くことは、とても興味深いことでした。特徴的な声をご紹介します。その一つは、「これでは食べていけない」という生活に対する切実な声でした。国民年金受給の場合、月額で6万円に満たないケースは珍しくなく、医療・介護・暮らしに対する不安は深刻でした。今も年金は下がり続け、医療や介護サービスはどんどん切り下げられ、人間の尊厳を保つことが困難なケースも生じさせる制度となっています。

また一つには、憲法を守りたいという声です。首相が与党の議席数だけを頼りに推し進める政治に、多くの市民は、日本国憲法や平和についての危機感を募らせていました。その後2015年にも、国民の過半数が反対し、憲法学者・元最高裁判事・歴代の内閣法制局長官が揃って「憲法違反」と断ずる中で、首相は安保法制を強行成立させました。法の内容とともに、この首相のやり方に、国民の不安はピークに達していました。

朝の駅頭で演説している時、中学生と思しき女子生徒が駆け寄ってきて、私の手を握り私の眼をまっすぐに見つめながら「憲法守ってください」という場面がありました。私は

胸が熱くなりました。昼の街頭で話している時には、高齢の女性が足を止めて、私に熱く語りかけます。「戦争は絶対にダメよ」と。このような場面をどれ程経験したことでしょう。この選挙の時から議員2年を経た現在まで、市民の方の声と実態は、常に議員活動の源泉です。

日本社会は多くの問題を抱えています。新自由主義が大手を振り、格差が広がる中で、弱者は生きる資格がないといわんばかりです。「公助」が不当なものであるかのように「自助・共助」が強調される社会は、人間が培ってきた知恵を投げ捨て、「弱肉強食」の時代に戻れといっているかのように私には思えません。人生には「公助」が必要な場面が多くあるから、人間社会は行政を形作り、税金を納めてきたのではないのでしょうか。

この流れによる生活の困難・不安に、安倍政権の「戦後日本を否定する」国づくりが加わり、今、戦後最大の危機だと私は思っています。このままでは、健全な社会には程遠いものとなってしまいます。神奈川県政及び県議会においても、住民福祉の増進という自治体の第一の役割を十分に果たせる神奈川県を、目指し、忙しく過ごしています。定年退職後も元気で、自分の価値観に基づく仕事ができるのは、嬉しいことです。

納得ずくの人生を送ってきた私に、不意打



ちのような出来事がありました。昨年12月に娘が急逝しました。私も両親・兄二人・夫と大勢の友人を残して。子を失うという事は、悲しさだけではなく、絶対的な喪失感と悔いに襲われます。忙しい母であった私は娘の優しさに甘えて、娘の32年に十分に寄り添えていなかったのではと、死後、自分を責め悔いています。もともとと抱きしめてあげたかったのに、という思いが拭えません。



## イタリアの幼児教育と小児鍼

三國 秀美 (平成元年卒)

現在東京の中目黒で鍼灸院を営んでいる三國と申します。

この4月、私は鍼を打ちお灸をひねる毎日から非日常のイタリアへ行き、幼児教育のセミナーに参加してきました。興奮冷めやらぬなかこのような機会をいただいたため、さっそくセミナーの報告をさせていただきます。渡伊したのは10年ぶり。当時は工業デザイン・ジャーナリストとして毎年この時期はミラノのデザイン・ウィークを取材していました。今回、そのデザイン・ウィークとセミナーのスケジュールが重なり、さまざまなタイミンングにあと押しされてミラノへ旅立つことになったのです。

ミラノからイタロという民間の新幹線(なんと!フェラーリ出資とのこと。時速300kmを体感できたようです)で1時間弱ほど移動すると、レッジョ・エミリアという小さな町があります。ちょうどミラノとボローニヤ

優しい娘でした。大きな声と体で影響力抜群、友人との関わりも実に充実していました。本当に皆さんに愛されていたと思います。「娘」に触れる度「こんなに元気で輝いているのにどうして?…」と、涙です。

これからもずーっと、娘に対する思いを抱えて生き、涙を流しながら、仕事をしていくのだろうと思います。娘が私が社会的に活躍することをとても喜んでくれていました。

との中間あたりに位置しています。「電話でタクシーを呼ぶように」書かれた看板にぼう然としながらうまく通りがかったローカル列車でセミナー会場に向かったのが4月4日でした。私は友人とともに遅れて会場入りしたのですが、4月2日から7日までを開催期間とし、世界中から300人以上の幼児教育者が集まりレッジョ・チルドレン式の幼児教育について現場報告や施設見学を中心とするセミナーが始まりました。

レッジョ・チルドレン式幼児教育を一文であらわすと「生態学的な感性をのばす」。このひと言に尽きるようです。自治体が子どもの発達をコミットするという取り組みは、イタリアらしい哲学的なアプローチととることができます。幼児教育コンテンツそのものやあ

るべき子どもの学びの姿を検討し、経験として蓄積するこのアプローチですが、日本でもっと知られてほしいと願っています。もと、第二次世界大戦後に「子どもたちに本質的な教育の機会を」という母親たちの想いから発生したという背景があり、小児鍼に通じるころがあると感じていました。「教育はすべての子どもの権利であり、それはコミュニケーションの責任である」「幼児の教育機関はすべての子どもの可能性と関係性、自主性、創造性と学びを促進する」「施設や家庭、そして地元機関は子どもたち個人が豊かで独自性に富む、生活の調和的な体験を享受する」

子どもたちの成長や発達を通して、心身の健全を構築するようみんなが意識しているのです。現場では既成のカリキュラムに頼ることなく状況に応じたプロジェクト方式で活動項目が決まり、光あふれる建物でクラスが実践されます。その実践記録はドキュメントとして専門機関に保管されいつでも閲覧することができるようになっています。個人の成長記録としてだけではなく、教育参考資料としても、非常にわかりやすい財産になっているように感じました。

現場では保育エリアで保育専門士が子どもたちを見守り、中庭などアトリエと呼ばれる空間でアトリエリスタと呼ばれるアートのプロが子どもたちの表現をサポートします。子どもたちは身のまわりにあるもので創作活動をするのですが、たとえば、粘土でさまざまなテーマを表現するプロジェクトに携わったり、葉っぱや植物を物語のように配置し、それらをプロジェクトで投影し1コマずつ撮影し、その画像をつなげてアニメーションをつくるプロジェクトに携わったりします。自然とテクノロジーをうまく組み合わせながら子どもの感性が無理なく発達するような取り組みがなされています。

また、セミナーで上映されるビデオをみると、大きな広間にひな段のように段差が設けられ、子どもたちが絵を描く、おもちゃで遊ぶなど何に熱中しているのかひと目でわかるような空間構成になっている施設があったり、外となかをうまくガラス戸で仕切り自然に近い空間をもつ施設があったり、建築内装ひとつをとってみても興味深いものがありました。後者の施設では子どもが2キロくらいある石を外から持つてきて、部屋の床に大小の石や葉っぱや小枝を並べては街を表現するシーンが流れていました。おとなの目線で「ケガをしそう。危ないから……」という安

全面重視の現場ではないことが私の目には新鮮に映りました。私が鍼灸院のかたわらで運営している通所介護の現場では「ヒヤリハット」から転倒リスクを最小化した施設づくりを意識しているのですが、ご利用者目線で、充実した一日を実感していただける規制しすぎない施設づくりのほうが重要かもしれません。

最終日は、これまでの会場とは違い、市の中心部にある歴史的なオペラハウスでのセミナーでした。クラシックな雰囲気でのセミナーは、イタリアという国の懐の深さを感じさせます。講演者の声は反響し、催眠術のように私の耳の奥深くに届き、まるで夢の中でセミナーの幕が下がったようでした。オペラハウスを出て、次の目的地へ向かうべく荷物を引きながら駅に向かって歩いていると、新緑のにおいがすべての成長を歓迎しているかのようにです。この、静かで穏やかなイタリア地方都市で生態学的感性を軸に育った子どもたちが享受できる人生は、デジタル・コンテンツの刺激が溢れる東京のような大都市で環境に気づかない、スマホをのぞきながら育った子どもたちが享受する人生とどんな差になりうるのか、いち鍼灸師として意識し多様性をもった治療につなげていきたいと考えています。

# 林善茂名誉教授を偲ぶ

同窓会事務局のもとに、高倉嗣昌・公益財団法人ふきのとう文庫代表理事が追悼の原稿を寄せられましたので掲載します。

私は学生時代、林先生のゼミ生ではありませんが、大学院生の時にご指導を賜り、経済学部を巣立っていった人間です。

当時林ゼミという単独のものではなく、「高倉・林ゼミ」でした。その「高倉」というのは私の父高倉新一郎でちょうど学部長でした。林先生と父とは師弟関係にあり、ペアのように位置付けられて「合同」の形をとったのでしよう。実際には父はあまりゼミには関与せず、事実上林先生がゼミをやっておられたのです（新一郎は間もなく農学部に転出し単独の林ゼミになりました）。中心となる授業担当科目は「経済史三部」で、北海道経済史でした。

何も持たずに教室に入ってきて、やおら内ポケットから紙の束を出し講義を始められます。時として別の話をとうとうとなさり、もう今日は本題の話がないのかと思ったところ紙を取り出して……ということもありました。

林先生のご専門は北海道経済史であり、アイヌ民族の歴史も大きな部分を占めるのは当然で



しよう。私は経済地理から教育学に転じた人間であり、歴史学者林先生の研究内容を云々する立場ではありません。

先生は剛健な性格であり言葉少なにズバリものを言われることが多かったのですがそれが誤解を招くこともありました。経済の授業でアイヌ問題に触れた際、その内容がある若手のアイヌ民族運動家の耳に入り、授業内容の撤回を要求し学部前にテント張りで座り込むという事件になりました。

先生は相手方と会い発言の真意をお話しされたのですが、なかなか納得を得られず和解まで数日を要したことは先生にとって不意な出来事であったことでしょう。林先生はたいへん困難な課題に取り組んでこられたのです。

先生は表裏のない公平な性格だったので多くの学生、特にゼミ生から慕われ、北大を定年退官されてご子息の住む名古屋に居を移された後も年に1、2度札幌にいられておられました。その都度数期にわたるゼミ卒業生が集まり楽しい交流の一時をもたせていただいていたいました。

しかし90歳に近づかれた頃から来札されなくなり、ここ数年は年賀状をお出ししても反応のない状況が続いていたのです。みな気にかけておりましたが、今年になり同窓生の竹野学氏（経済史が専門）からの情報で平成25年3月に他界されていたことがわかり、残念な思いでいっぱいです。

数えまですと享年94歳で私が学生・院生時代に師事した先生方では最も長寿でおられたことになり。残された大きな業績を称え、謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 北海道大学認定

同じ札幌の地で歴史を育む「札幌唯一の酒蔵 千歳鶴」が、創業140余年の伝統の技で丹念に醸し上げました。原料米は北海道が誇る酒造好適米「吟風」を使用した北海道産100%のこだわりの逸品です。



梅酒  
雪の天使たち  
180ml詰  
822円(税込)  
◀斜めにも置くことができます。



特別純米  
ポプラ並木  
500ml詰  
2,400円(税込)

大吟醸  
ポプラ並木  
500ml詰  
2,900円(税込)

### お問合せ先

札幌市北区北8条西7丁目  
北大グッズ受注センター @エルムプロジェクト 担当/近澤  
TEL011-708-0388 FAX011-708-0389 <http://www.hokudai.seikyoku.ne.jp>

札幌市北区北8条西4丁目(北大構内)  
北大ショップ 北大交流プラザ エルムの森ショップ  
TEL011-708-7540

売上金の一部は、北海道大学の運営費に充てられます。

●お酒は20歳になってから。●妊娠中・授乳期、また自動車・機械等の運転前、運転中の飲酒は避けて下さい。●お酒はおいしく適量を。●表示価格はメーカー希望小売価格(税込)です。

日本清酒株式会社 札幌市中央区南3条東5丁目2番地 ☎011-221-7106 <http://www.nipponseishu.co.jp>



クラーク像前では北大散歩メンバーで記念撮影をおこない、元気な姿をキャンパスに焼き付けた（左から二人目が荒又重雄名誉教授）。

**卒業60周年の集い**  
 (平成29年6月2日 会場：京王プラザ札幌)  
 経済学部学術専門職 塚田 久美子

青天に恵まれた北大祭の中を、80才を超えたOBたちが懐かしそうに（物珍しそうに?）、メインストリートを歩き、模擬店やイベントなどを見歩く姿があった。  
 昭和32年に北大大類を卒業したメンバーによるこの会は10年ごとに催され、前回は53名の出席者が集い、今回は数名のOGも含め、26名と半分になったが、「生き残った」もの同士、旧交を温め合いながら、長生きを誓いあった!

**今年も集まろう!**

平成29年  
**北大経済学部**  
**同窓会総会・懇親会のご案内**

例年同様、大学のホームカミングデーに合わせて講演会、同窓会総会、懇親会を左記の通り行います。ご都合に合わせてどこからご参加いただいても構いません。秋の一日、お誘いあわせの上お気軽にお出掛けください。

**日時**：平成29年9月30日（土）

・公開シンポジウム 14時～16時30分

「地域を創造する子育て」

（テーマ 芸術フロンティア北海道）

パネリスト 川上佳津人さん

（昭和58年経済学部卒）ほか

人文・社会科学研究棟（通称W棟）

103号室（博物館の対面）

・同窓会総会 16時45分～17時15分

「軍艦講堂」2番教室（講演会場隣接）

・懇親会 17時30分～19時00分

北大生協 中央食堂2階

**会費**：3,000円（同伴家族2,000円）  
**受付**：当日受付（事前申し込みは要りません）

**お客様の「想い」をカタチにする!**

わたしたちの仕事は、総合印刷会社として  
 たくさんの方から幅広い視野で  
 お客様に必要なピースをしっかりと選び、  
 お客様の想いをしっかりとカタチにします。



TOTAL PRINTING  
**株式会社 須田裁版**

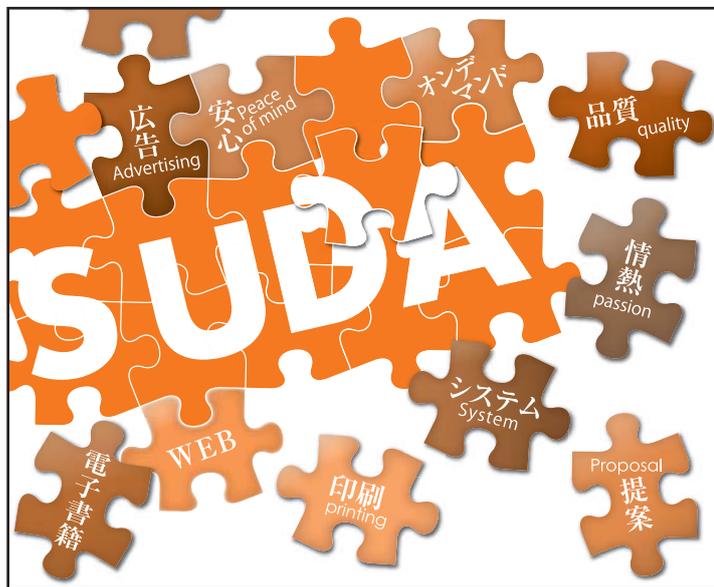
www.suda.co.jp/

札幌本社：〒063-8603 札幌市西区二十四軒2条6丁目1-8  
 TEL.011-621-1000 FAX.011-621-1500

旭川支社・釧路支社・苫小牧支社・関東支社・滝川営業所・帯広営業所・北見営業所



札幌本社 裁版工場にて  
 認証取得



名刺広告

株式会社 石川物産館  
恵愛ビル

取締役会長  
吉中 新太郎  
(経 昭和30年卒)

〒064-0804  
札幌市中央区南四条西四丁目十六番地  
電話代表 011-271-0011番

弁護士 公認会計士

伊東 孝  
(経 昭和34年卒)

札幌市中央区大通西十七丁目南大通ビル  
TEL011(271)2475  
FAX011(281)5809

バリアフリー本の子ども図書館

公益財団法人 ふきのとう文庫

代表理事

高倉 嗣昌  
(経 昭和36年卒)

業務執行理事

阿久津 良二  
(経 昭和37年卒)

札幌市中央区北6条西12丁目8-3  
TEL011(222)4839

中川原・石黒税理士事務所

税理士

中川原 慶憲  
(経 昭和41年卒)

札幌市中央区南一条東一丁目一番十一号  
第3泊ビル  
TEL011(271)8462

山田建一税理士事務所

税理士

山田 建一  
(経 昭和41年卒)

札幌市北区北十九条西五丁目一番十九号  
TEL011(746)5646

札幌監査法人

代表社員 公認会計士

高野 一夫  
(経 昭和45年卒)

札幌市中央区南一条西十一丁目新永ビル  
TEL011(261)7512

山崎公認会計士事務所

公認会計士 税理士

山崎 駿  
(法 昭和45年卒)

札幌市中央区南二条西5丁目  
電話011(211)1786

弁護士

吉川 正也  
(経 昭和46年卒)

札幌市中央区大通西十七丁目南大通ビル4階  
TEL011(261)6677

上野公認会計士事務所

公認会計士

上野 昌美  
(経 昭和47年卒)

札幌市中央区南23条西9-1-25  
TEL011(522)8170

遠藤公認会計士事務所

公認会計士

遠藤 昭一  
(経 昭和48年卒)

札幌市東区北二十二条東十八丁目三番二号  
TEL011(783)8123

社団法人日本クレジット協会

会長

杉本 直栄  
(経 昭和48年卒)

〒007-0834  
札幌市東区北34条東五丁目3番20号 イワモトビル2階  
TEL011(214)1176

弁護士

工藤 倫  
(経 昭和50年卒)

札幌市中央区北五条西十二丁目一番地  
ベルックス北五ビル B館二階  
TEL011(261)5275

田中利男税理士事務所

税理士 中小企業診断士

田中 利男  
(経 昭和50年卒)

札幌市中央区南3条西6丁目3-12  
南3条グランドビル601  
TEL011(261)2061

株式会社 ターフテック

代表取締役

宮本 裕司  
(経 昭和50年卒)

北広島市大曲工業団地五丁目一番地二  
TEL011(377)4011

美幌貨物自動車株式会社

代表取締役

田村 博昭  
(経 昭和50年卒)

網走郡美幌町稲美96番地  
TEL0152(73)5388

北大経済学部東京同窓会

会長

陣谷 義直  
(経 昭和51年卒)

岩本敏美税理士事務所  
(株)イワモトマネジメントサービス  
税理士代表取締役

岩本 敏美  
(経 昭和53年卒)

〒007-0834  
札幌市東区北34条東五丁目3番20号 イワモトビル2階  
TEL011(214)1176

不動産鑑定士 宅地建物取引士

目黒 健兒  
(経 昭和54年卒)

メタロオイス株式会社 代表取締役  
札幌市中央区南一条西六丁目十四番地  
大友ビル四階南一条通り南向き  
TEL011(218)3566  
不動産の鑑定評価と仲介

監査法人ライイトハウス

代表社員 公認会計士

北村 好孝  
(経 平成4年卒)

札幌市中央区南一条西11丁目コンチネンタルビル  
TEL011(232)7102

監査法人ハイビスカス

代表社員 公認会計士

堀 俊介  
(経 平成6年卒)

札幌市中央区南一条西9丁目井門札幌S109ビル  
TEL011(826)5265

吉田大吾税理士事務所

税理士

吉田 大吾  
(経 平成11年卒)

札幌市中央区南3条西12丁目320-8  
札幌森ビル3-3階  
TEL011(206)4236

中村泰道会計事務所

所長(公認会計士 税理士)

中村 泰道  
(経 平成12年卒)

札幌市北区北7条西2-20 東京建物札幌ビル2階  
TEL011(209)2624  
E-mail: y-nakamura@nakamura-cpa.jp

牧田税理士事務所

税理士

牧田 秀崇  
(院経済 平成22年卒)

苫小牧市音羽町1丁目8番6号  
TEL0144(34)0385  
URL: http://www.taxmakita.com



同窓会サポート企業

SALAT 株式会社 サラト

■本社  
兵庫県姫路市北条宮の町172  
〒670-0948  
Tel.079-284-1380

■東京支社  
東京都台東区台東4-18-7 シモジビル5F  
〒110-0016  
Tel.03-3832-6381



20000142(07)

http://www.salat.co.jp



## 平成29年7月期 収支報告書

自 平成28年8月1日 至 平成29年7月31日

	項目	金額(円)	備考
収 入	前期繰越金	4,694,079	
	会費収入	943,432	終身会費21名ほか
	広告収入	315,000	会報32号
	總會収入	45,000	懇親会会費
	その他	46,195	寄付(林ゼミ親交会)ほか
	計	6,043,706	
支 出	消耗品費	15,658	ウイルスソフト代金ほか
	会議費	0	
	總會関連費	72,810	懇親会費用
	助成金	160,000	卒業祝賀会助成、優秀論文賞
	通信費	325,281	会報発送代、往復はがきほか
	会報作成費	522,965	会報32号
	旅費	0	
	事務費	575,000	事務局実費
	印刷費	47,500	封筒類(大量)印刷費
	雑費	8,968	
	計	1,728,182	
	次期繰越金	4,315,524	
	合計	6,043,706	

## 編集後記

- スキャンダルや暗い話が多い中で、中学生棋士藤井聡太四段の29連勝は久しぶりの明るい話題です。学生服や着慣れない背広姿で並居る強豪をなぎ倒し、記者会見では最近はトンとお目にかかれない謙虚さや初々しさを感じさせてくれました。藤井四段に触発されて若年層や初心者にも将棋ブームが広がっているとか。私もへボながら彼の棋譜を並べては精緻な読みと勝負への執着には驚かされ、400年指し続けられてきた将棋というゲームの奥の深さを改めて教えられた思いです。
- 今号はメールアドレス判明者に広く案内を差し上げた結果、たくさんの原稿が集まりました。やや時間も余裕もある「団塊」中心の世代に偏ったきらいはありますが、元気な筆致とこだわりの内容に後輩たちも刺激を受けたのではないのでしょうか。来年は20～50歳代の生きのいい原稿も多く載せたいと思います。近況、趣味、家庭、仕事、生き甲斐、人生観、学生時代の思い出、同期の集まり・・・自薦他薦問いません、是非ご寄稿ください。
- 同窓会事務局ではお手伝いを頂けるOB、OGの方の参加をお待ちしております。雰囲気の良い集まりを心がけておりますので気軽にご連絡ください (dosokai@econ.hokudai.ac.jp)。  
(岩本 記)



# 北海道大学の歴史とともに、 北大生協は70年歩み続けています

## 北大生協の3つの使命

- ① 北大生協は「北大の勉学・教育・研究の発展に安心と信頼のサービス」で貢献します。
- ② 北大生協は、「学生・院生の自立・成長と学内構成員の協力・協同の促進」に寄与します。
- ③ 北大生協は「持続的発展可能な地域社会・国際社会の実現」に向けて力をつくします



## 北海道大学生生活協同組合

札幌市北区北8条西7丁目 電話:011-746-6218(理事会室)

北大生協ホームページTOP <http://www.hokudai.seikyone.jp/>

北大生協ビジョンとアクションプラン ~2020年に向けて <http://www.hokudai.seikyone.jp/mission/>



## 会費のお願い

前ページの「収支報告書」どおり、前期は大幅な赤字（次期繰越金の減額）でした。経費は予算範囲内でしたが会費収入が前期比62%と大きく落ち込んだことが要因です。当会はこれまで会報を払わない方にも便宜（この会報送付もその一つ）を提供してまいりましたが、今期以降はこれを見直さざるを得ない状況となっています。法人化以降の大学が同窓会に寄せる期待に対し責任ある対応をしていくためにも財務弱体化の放置はできません。どうかご理解いただき年会費、終身会費の納入をお願い申し上げます。

**年会費 3,000円**

**終身会費 30,000円**

### 振込方法

●郵便局、コンビニの場合

同封の「振込取扱票」にてお願い致します。払込料は同窓会負担。用紙にご注意。

●銀行振り込みの場合

北洋銀行本店営業部 普通 0666955 北大経済学部同窓会 会長 上野昌美  
北海道銀行本店営業部 普通 0754677 同上

○住所、勤務先などの変更については、事務局までお届け下さい。本学部の卒業生は転勤も多くつい届け出を忘れがちで、毎年かなりの会報が「宛先不明」で返ってきます。メール、電話を宜しくお願いします。



## (株)ブライダルは北海道大学経済学部同窓会の皆様の「結婚」を応援します。

### 39年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも「結婚」という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に北大校友の皆様には平成18年より「北海道大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「北大経済学部同窓会報」を見たおっしやっってくださいれば、校友の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に「結婚」を特典付(登録料100%OFF)にてお世話させて頂きます。

## 北海道大コース

登録料 **100% OFF**

ブライダルコース ¥226,800 ▶ ¥194,400 etc.\*

エクセレントコース ¥388,800 ▶ ¥356,400 etc.\*

※価格は会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。



1978年創業 **株式会社 ブライダル**

Network 東京・横浜・湘南・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F  
名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F  
大阪支社 〒530-0001 大阪市北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング6F



お問い合わせ **0120-415-412** ホームページ <http://www.bridal-vip.co.jp>  
(月曜定休)

QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。